

第22回IPアドレス管理指定事業者連絡会

IPv4アドレスの枯渇 に関する状況のご報告

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
IP事業部 サトウススム



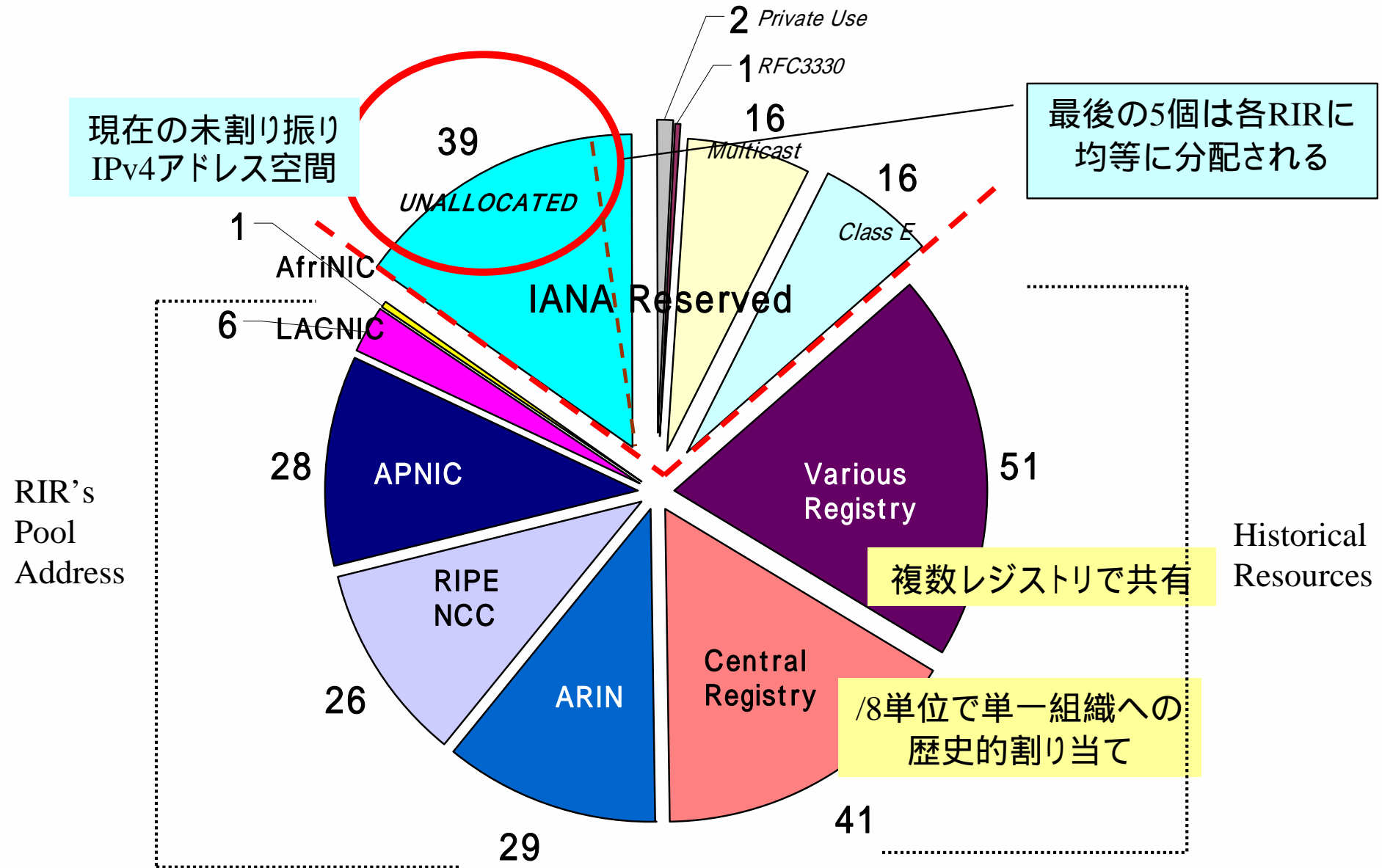
社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

本日のご報告内容

- **最新のIPv4アドレス在庫状況**
- **IPv4アドレス枯渇対応TFの活動について**
- **JPNICの今後の活動予定**

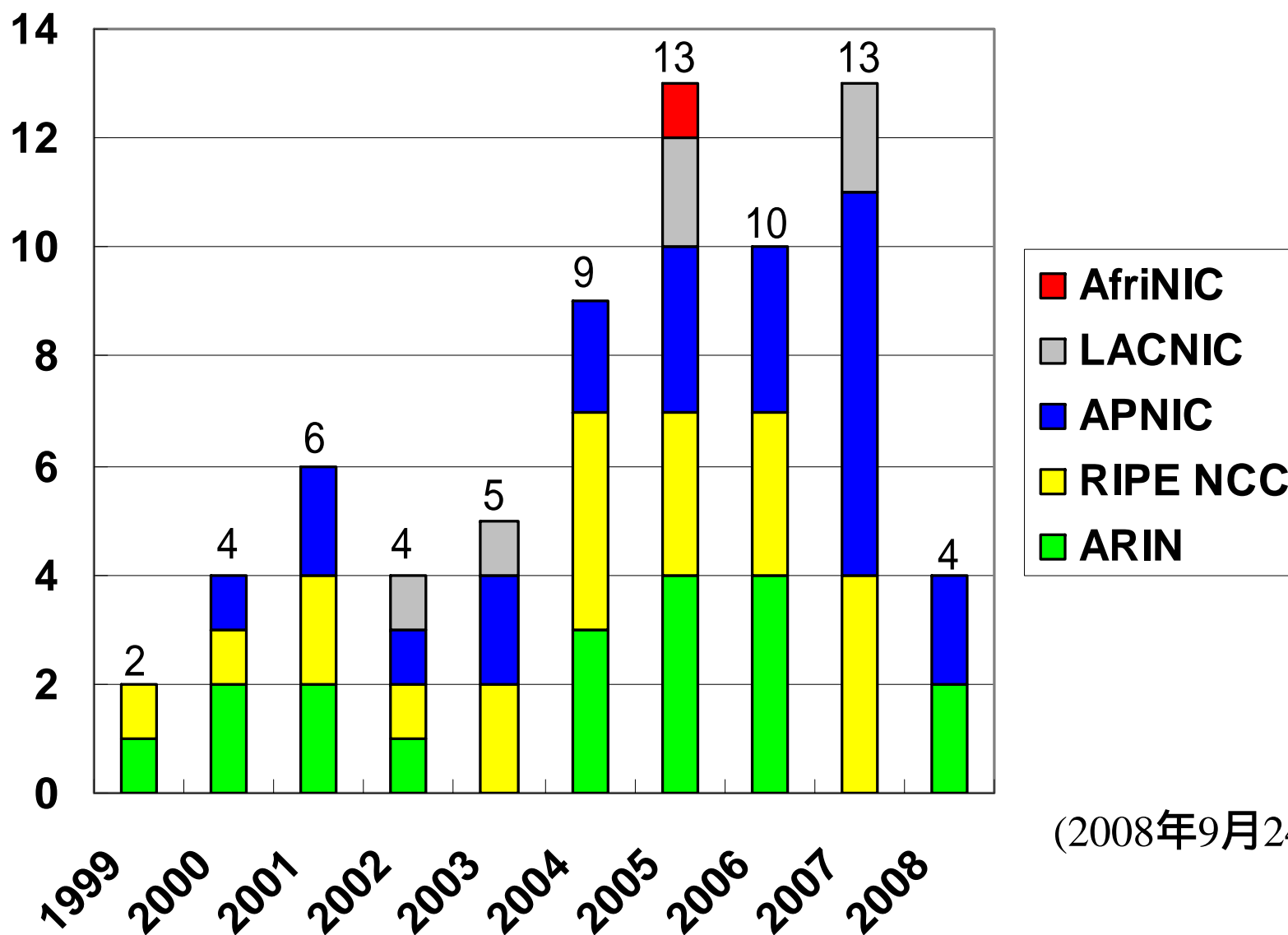
最新のIPv4アドレス在庫状況

IPv4アドレス空間・現在の利用状況



IANAからRIRsへの/8ブロックの分配状況

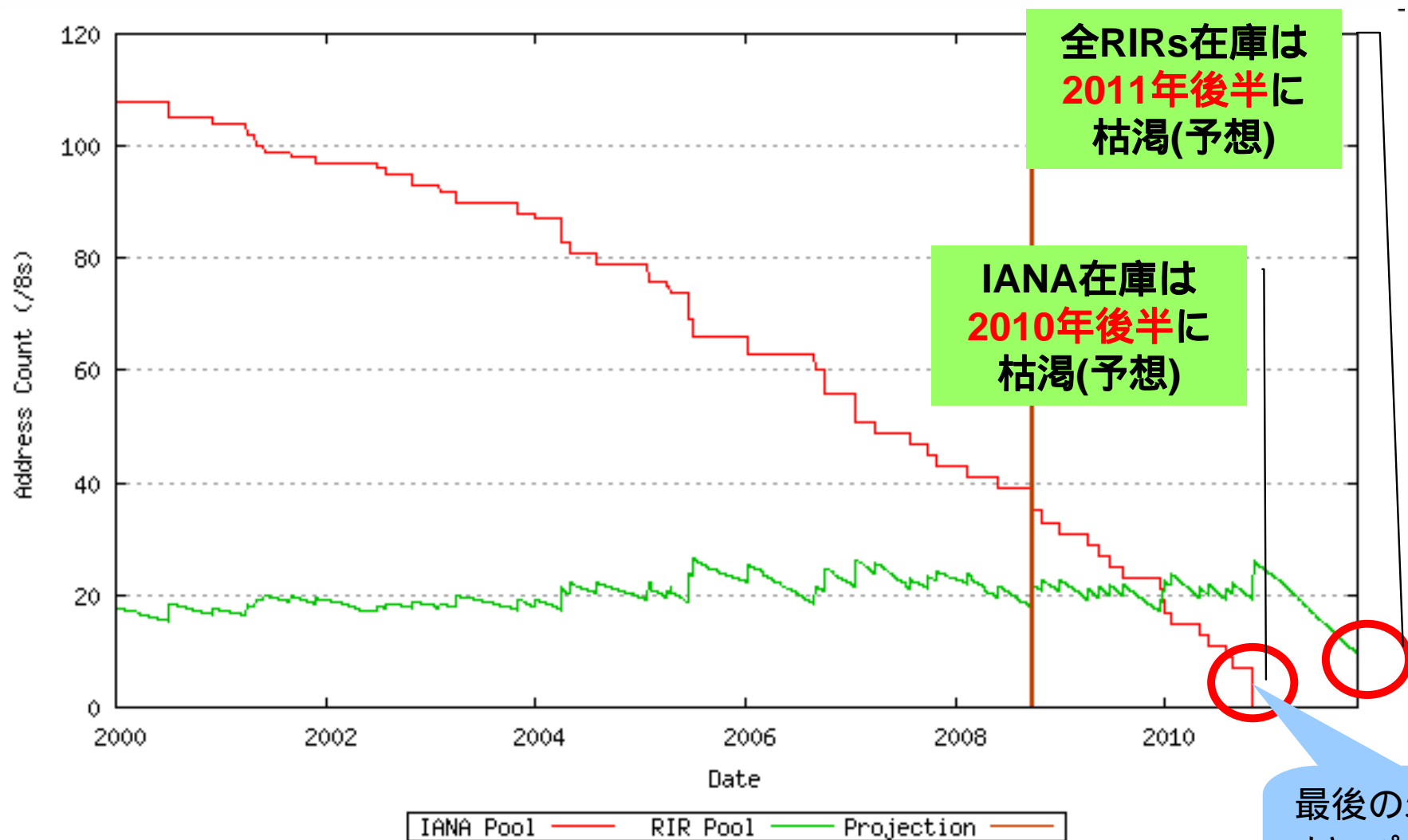
/8ブロック数



(2008年9月24日現在)

IPv4アドレス在庫枯渇の現状

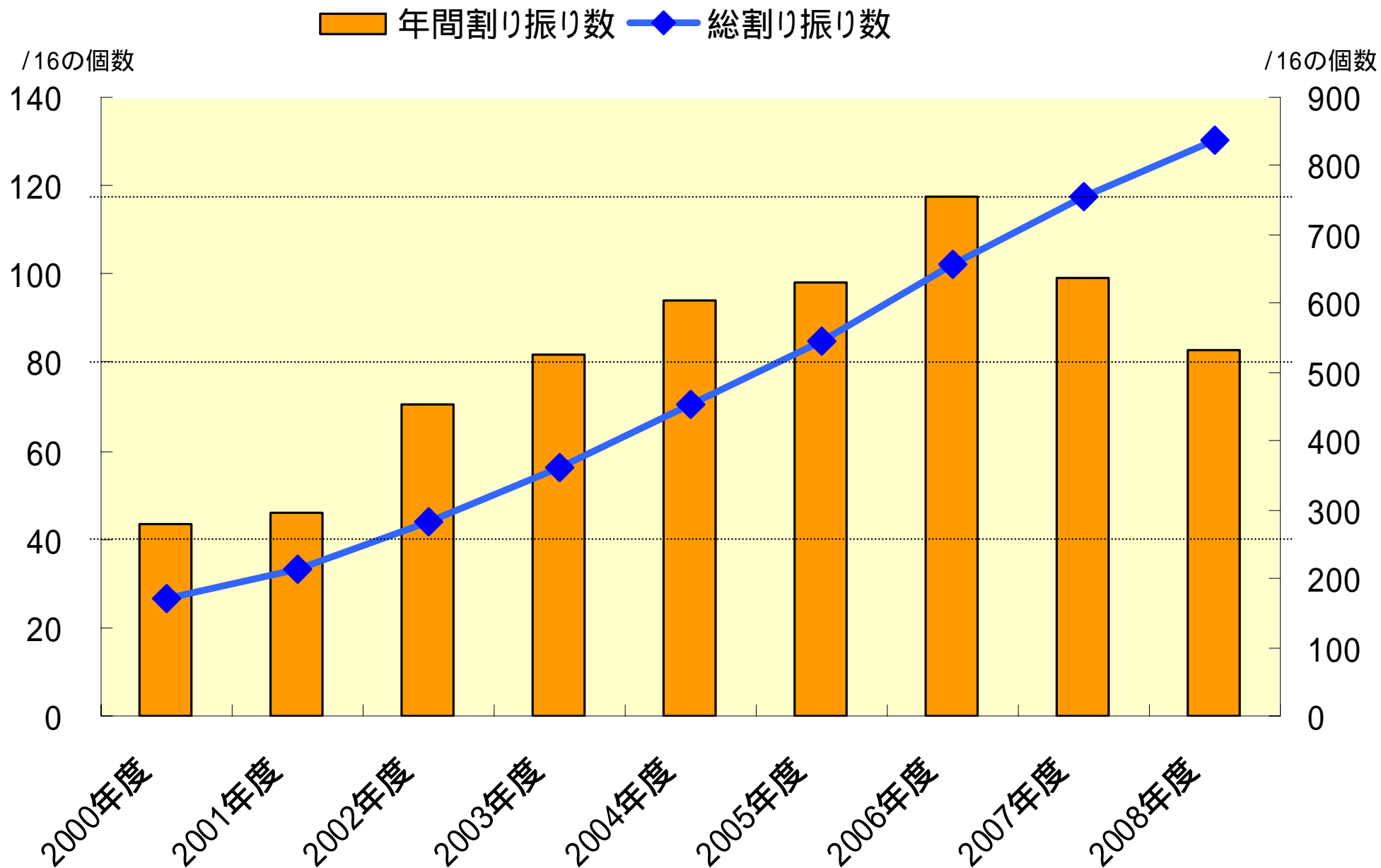
未分配IPv4アドレスの在庫は2010～2011年になく なると予測



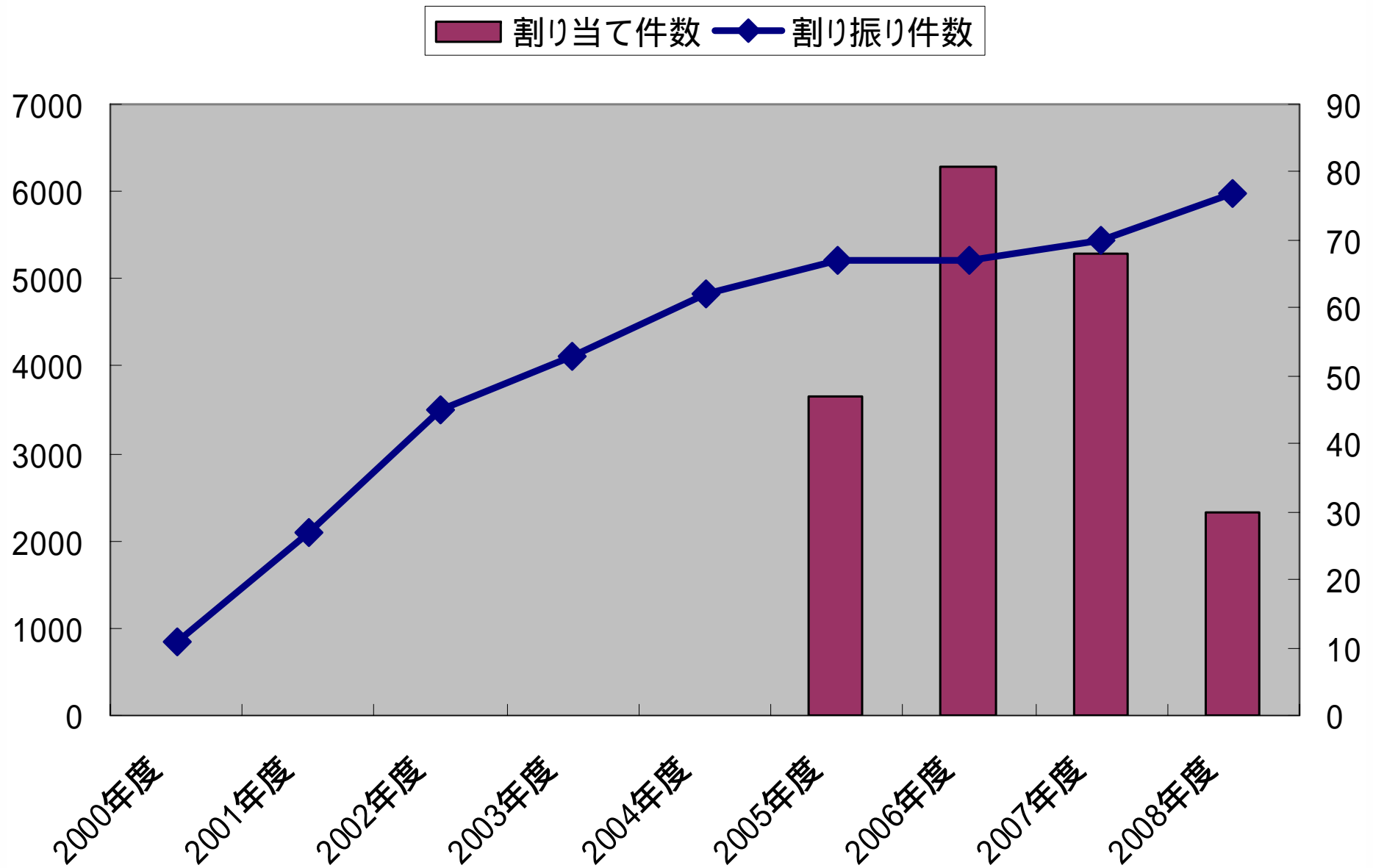
最後の5個の/8が
いっぺんに分配
される

国内のアドレス消費状況

JPNICにおける IPv4アドレス割り振り推移



JPNICにおける IPv6アドレス割り振り・割り当て推移



IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース の活動について

IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース

- <http://www.v6pc.jp/jp/taskforce/index.phtml>
- IPv6協議会の江崎専務理事・荒野常務理事のリードで、インターネット関連・テレコム関連13団体の共同タスクフォースを2008年9月5日に立ち上げ
- 各団体で協調して、ステークホルダーに対応を促進する活動を展開

IPv6普及・高度化推進協議会 (v6PC)
財団法人インターネット協会 (IAJapan)
次世代IX研究会 (distix)
情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)
社団法人テレコムサービス協会 (テレサ協)
社団法人電気通信事業者協会 (TCA)
財団法人電気通信端末機器審査協会 (JATE)
社団法人日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA)
社団法人日本ケーブルテレビ連盟 (JCTA)
財団法人日本データ通信協会 (NIC)
社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)
日本ネットワーク・オペレーターズ・グループ (JANOG)
日本UNIXユーザ会 (jus)
WIDEプロジェクト (WIDE)

計:14団体



2008年9月5日発足式の様子

第1回テクニカルセミナーのご報告(1)

<発表>

■「インターネットのIPv6化に向けて ~IPv4アドレス枯渇への対応~」

柳島 智氏(総務省総合通信基盤局)

- IPv4アドレス枯渇への政府としての取り組み、運用技術取得支援のためのテストベッド構築

■「IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース」

江崎 浩氏(IPv6普及・高度化推進協議会 専務理事)

- IPv4アドレス枯渇対応が目的(IPv6導入が目的ではない)、対応の意義はビジネスチャンスとリスク管理

■「各事業セグメントごとのIPv4アドレス枯渇対応アクションプラン」

荒野高志氏(IPv6普及・高度化推進協議会 常務理事)

- 水平的且つ垂直的な事業構造なため業界内 & 業界間連携が重要
- 2010年後半までアクションリストへの対応が必要

■「IPv4アドレス在庫枯渇状況とアドレスポリシー動向」

佐藤 晋(社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター)

- 枯渇時期は2010年~2011年、枯渇期の分配ポリシーはほぼ決定、移転議論はこれから
正念場 移転に期待は危険

■「IPv6 Ready Logoの認定状況から分かること」

寺田昭彦氏(財団法人電気通信端末機器審査協会)

- IPv6 Ready Logo phase2の取得が推奨され、米国、中国は急速に認定数が増加、日本は伸び悩み ビジネスチャンス喪失のおそれ

第1回テクニカルセミナーのご報告(2)

<基調講演>

■ 「IPv4アドレス枯渇」によるプロバイダへのインパクトと対応

飯塚久夫氏 (NECビッグロブ 代表取締役執行役員社長)

- 情報通信サービスの価値を再評価すべき、健全な競争が必要

<研究発表・報告>

■ 「From IPv4 only To v4/v6 Dual Stack - IETF72 IAB Technical Plenary -」

宮川 晋氏 (NTTコミュニケーションズ株式会社)

- 枯渇対策としてIPv6化は必須、円滑な移行のためのCGN導入も必要

■ 「IPv4アドレス枯渇!! その時、データセンターに何が起きるか？」

今井恵一氏 (テレコムサービス協会・政策委員会副委員長/NEC企業ソリューション企画本部)

- リスクとコストを評価して対応策を選択する必要があるが中長期的にはIPv6導入が必要

■ 「Webサービスを継続するための共存環境について考える? IPv6対応の現状とこれから？」

工藤真吾氏 (IPv6普及・高度化推進協議会 IPv4/IPv6共存WG サービス移行サブWG・主査)

- 合宿検証の結果低レイヤ(サーバ/ネットワーク機器)の対応は進んでいる、コンテンツ側のv4/v6を意識した対応が共存のためには必要

■ 「WebサービスIPv6化をめぐる問題点」

小山哲志氏 (日本UNIX ユーザ会)

- 枯渇問題はWebサービス開発現場に知られていない、インセンティブと利用環境の提供が必要

第1回テクニカルセミナーのご報告(3)

当日の資料とビデオ映像

http://www.v6pc.jp/jp/entry/taskforce/2008/10/1ipv4_4.phtml

タスクフォースの今後の課題

- 認知が進んでいない分野への広報啓発
 - ・ホスティング、データセンタ、アプリ開発、Sierなど
- ISPのサービス計画 / 仕様と機器ベンダとのすり合わせ
 - ・家庭用ルータやファイアウォールなど
- IPv4 / IPv6共存インターネットの実現方策の検討
- 検証、教育のための環境整備
 - ・テストベッド構築
 - ・教育プログラム開発

JPNICの今後の活動予定

今後の予定

■ 状況把握のためのアンケート調査

- 枯渇の認知、対応状況を把握し、対応促進活動の対象、方法の検討材料とするためのアンケート調査を実施

■ 個別ヒアリング

- アンケートに基づき、いくつかの事業者様に個別ヒアリングを行う

■ 情報提供

- IWなど各種イベントを通じた情報提供とメルマガ、ニュースレターなど媒体を活用した情報提要

■ TFとの連携

- JPNICの活動内容、活動結果をTF各団体と共有し、フィードバックをもらう

■ 進捗確認

- 対応進捗状況を確認するための調査、ヒアリング

